



健康アドバイス

立川総合病院 呼吸器センター長
日本呼吸器外科学会 評議員

No.242

岸本晃司

肺がん

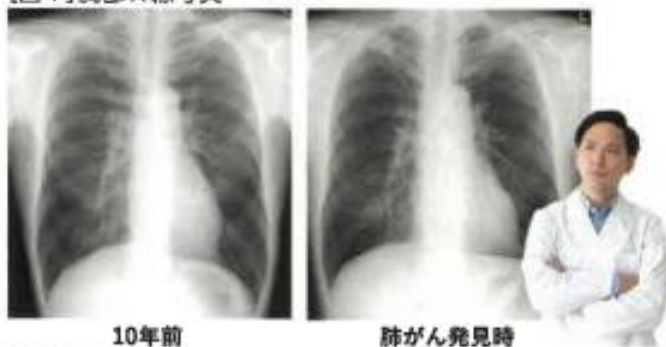
前回は、肺がんは進行すると一気に生存率が下がるため早期発見が特に重要であることをお話ししました。

では、どうしたら肺がんを早期に見ることができるのでしょうか？
現在長岡市で行われている住民健診や職場健診での肺がん検査は胸部X線検査によるものです。残念ながらこの検査で肺がんが早期に見られることはあまりありません。百聞は一見に如かず、まずは図1をご覧ください。これは早期肺がんの方の発見時と、10年前の胸部X線写真です。あなたは肺がんを発見できるでしょうか？これは専門医が見ても難しいでしょう。図2は、同じ人の同時期の写真です。一目瞭然ですね。CTは、胸部X線写真では発見が困難な病変でも簡単に発見できます。実際、CTによる検診（CT検診）で肺がんの発見率は、胸部

X線写真によるものの10倍であることがわかっています。別の言い方をすると、CT検診で見された10人のうち9人は、胸部X線検査では「異常なし」とされてしまうということです。しかもCT検診では早期肺がんが発見される割合が高いため、生存率が高いことがわかっています。検査はとて簡単で、2回ほど息を止めるだけで終了します。時間にしてわずか数分、痛くも苦しくもありません。検査前の食事制限もありません。いいことづくめのCT検診ですが、財政的な問題等から長岡市をはじめ多くの自治体の住民検診では導入されていません。そこで、立川総合病院では多くの方にこの優れた検査の恩恵を受けていただくよう、肺がんCT検

診を始めたいです。肺がん早期発見のために40歳以上の方は一度検討をしてみてください。料金や予約方法などはたちかわ総合健診センター（0258-3616221）へお問い合わせください。
次回からは肺がんの治療についてお話ししていく予定です。

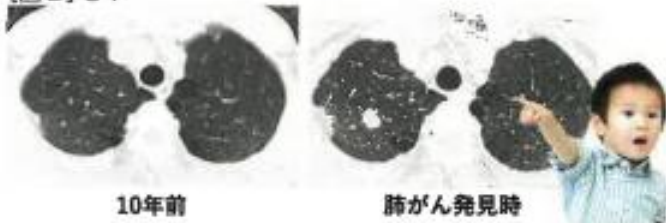
【図1】胸部X線写真



10年前

肺がん発見時

【図2】CT



10年前

肺がん発見時